

2014年8月27日

成田国際空港アクセス交通実態調査の結果について

当社では、成田空港へのアクセス交通の利用状況を把握するとともに、今後のアクセス改善に向けた基礎資料とするため、開港当初より隔年ごとに実態調査を実施しています。

今年3月に行った調査結果を別紙のとおりまとめましたので、ご報告致します。

調査日時： 2014年3月14日（金） 0時～24時

調査内容： 成田空港への全ての入港者を対象に、入港交通手段や入港目的について集計した入港者カウント調査、および全ての入港車両を対象に車種別等に集計した入港車両カウント調査を行いました。

入港者カウント調査結果

(1) 全入港者

① 入港者数について

- ・ 全入港者数は 93,073 人で、前回と比較して 15%増加しています。このうち、出発旅客の伸びが大きく 25%増加しており、空港内従業員も 9%増加しています。
- ・ これは、前回と比較して当日の旅客数が 21%増加（国際線 10%増加、国内線 143%増加）しているためと考えられます。
- ・ このほか、商用・送迎・見学等を目的とした入港者は大きな変動はありません。

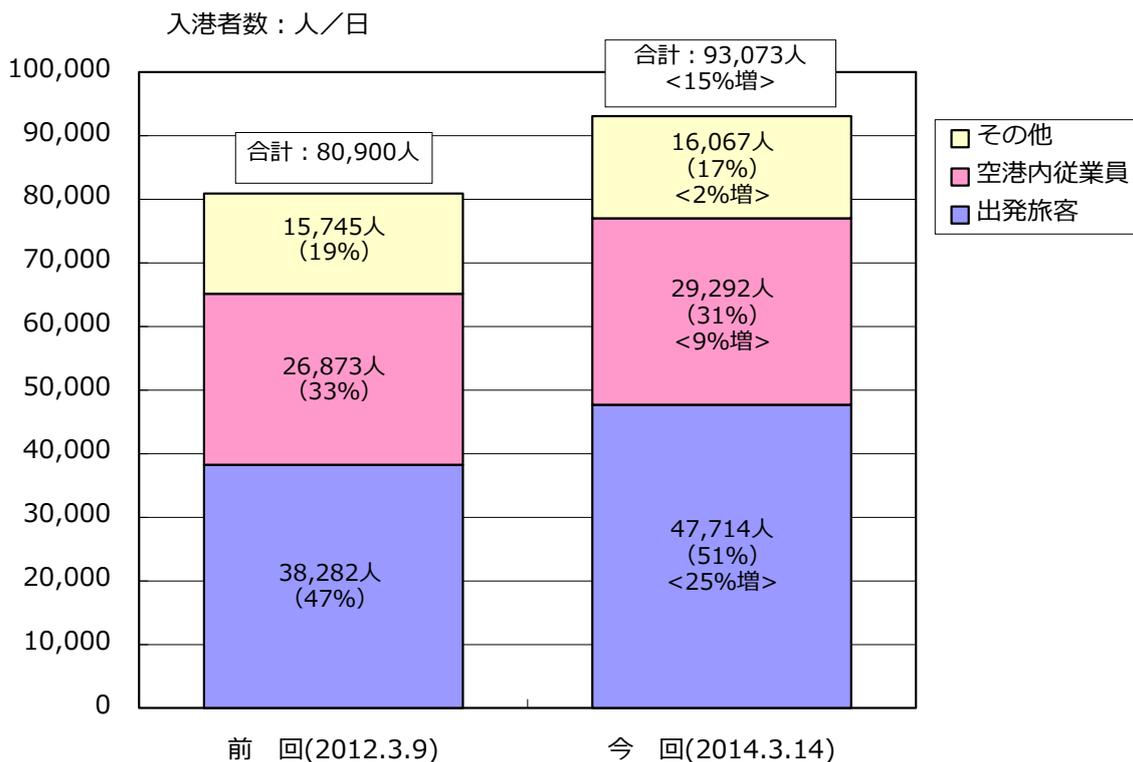


図-1 目的別入港者数の推移

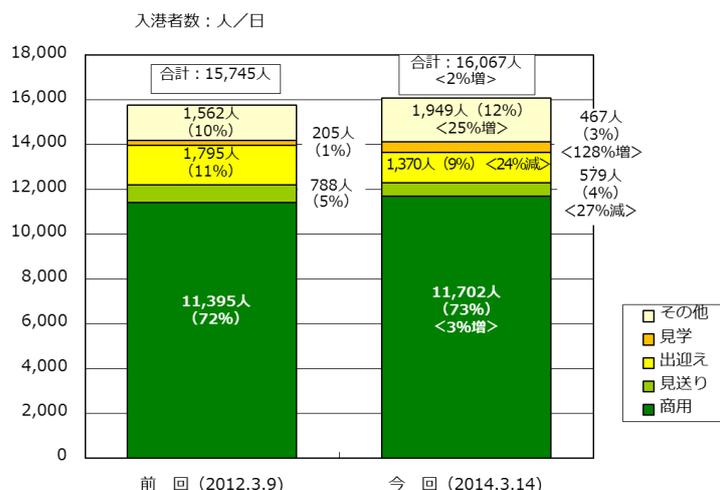


図-2 図-1のうち「その他」の入港者数の推移

※ () は構成比。 < > は前年比。

② アクセス交通手段について

【全体】

- 全入港者のアクセス交通の構成比は、自動車類が 62% (前回 61%)、鉄道類が 34% (前回 34%) となっており、前回調査と大きな変動はありません。

【鉄道類】

- 鉄道類は、京成本線が最も多く 13% (前回 14%)、NEX が 5% (前回 6%)、スカイライナーが 6% (前回 6%) などとなっており、前回調査と大きな変動はありません。

【自動車類】

- 自動車類は、自家用車 (空港外駐車場含む) が最も多く 28%、空港直行バスが 12%、貨物車が 9%、貸切バスが 6% などとなっています。
- 前回調査との比較では、空港直行バスが 9% から 12% となり 3% 増加しています。

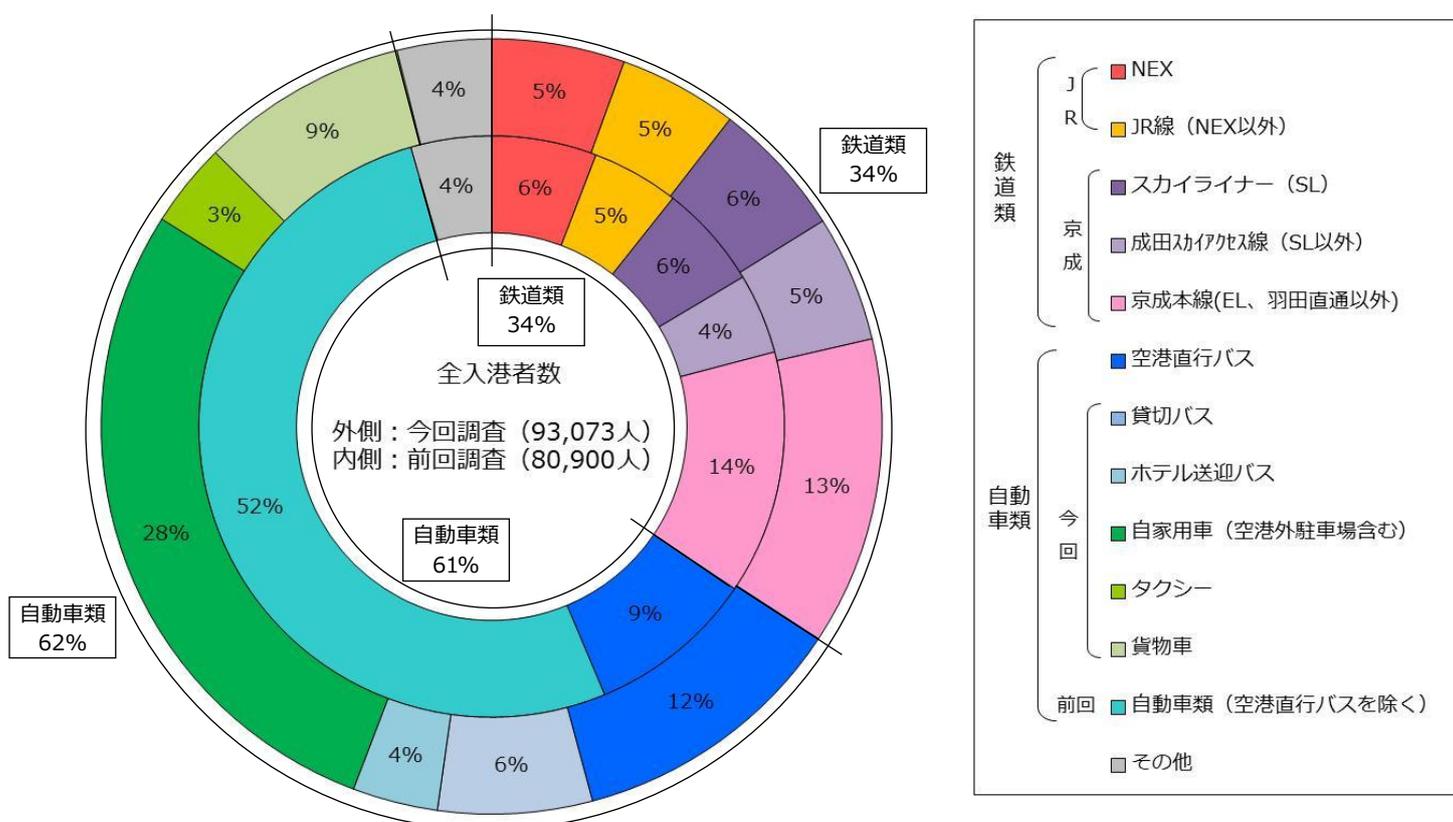


図-3 全入港者のアクセス交通手段構成比

注 1) 自動車類の分類について、今回の調査では目的別で集計を行いました。このため、前回の調査結果については、空港直行バス、自動車類 (空港直行バスを除く) の 2 種類に区分して今回の調査結果と比較しております。

注 2) イブニングライナーは、スカイライナー (SL) に含めて集計しています。

注 3) 自動車類の区分は次の通りです。

- ・ 空港直行バス：東京空港交通等の高速路線バス、地域路線バス (千葉交通・成田空港交通の近距離路線バス)
- ・ ホテル送迎バス：近隣ホテルからの送迎車 (大型バス、マイクロバス)

注 4) その他手段：貨物車、徒歩、自動二輪及び自転車

注 5) 構成比は四捨五入しているため、合計値が合致しない場合があります。

(2) 目的別入港者のアクセス交通手段

① 出発旅客（47,714人:全入港者の51%）について

【全体】

- ・ 出発旅客のアクセス交通の構成比は、自動車類が57%(前回53%)、鉄道類が42%(前回46%)となっており、前回調査との比較では、鉄道類の割合が4%減少し、自動車類が4%増加しています。

【鉄道類】

- ・ 鉄道類では、京成本線が最も多く12%（前回15%）、NEXが9%（前回10%）、スカイライナーが9%（前回10%）などとなっています。

【自動車類】

- ・ 自動車類では、空港直行バスが最も多く21%、自家用車（空港外駐車場含む）が20%などとなっており、前回調査との比較では、空港直行バスが17%から21%となり4%増加しています。

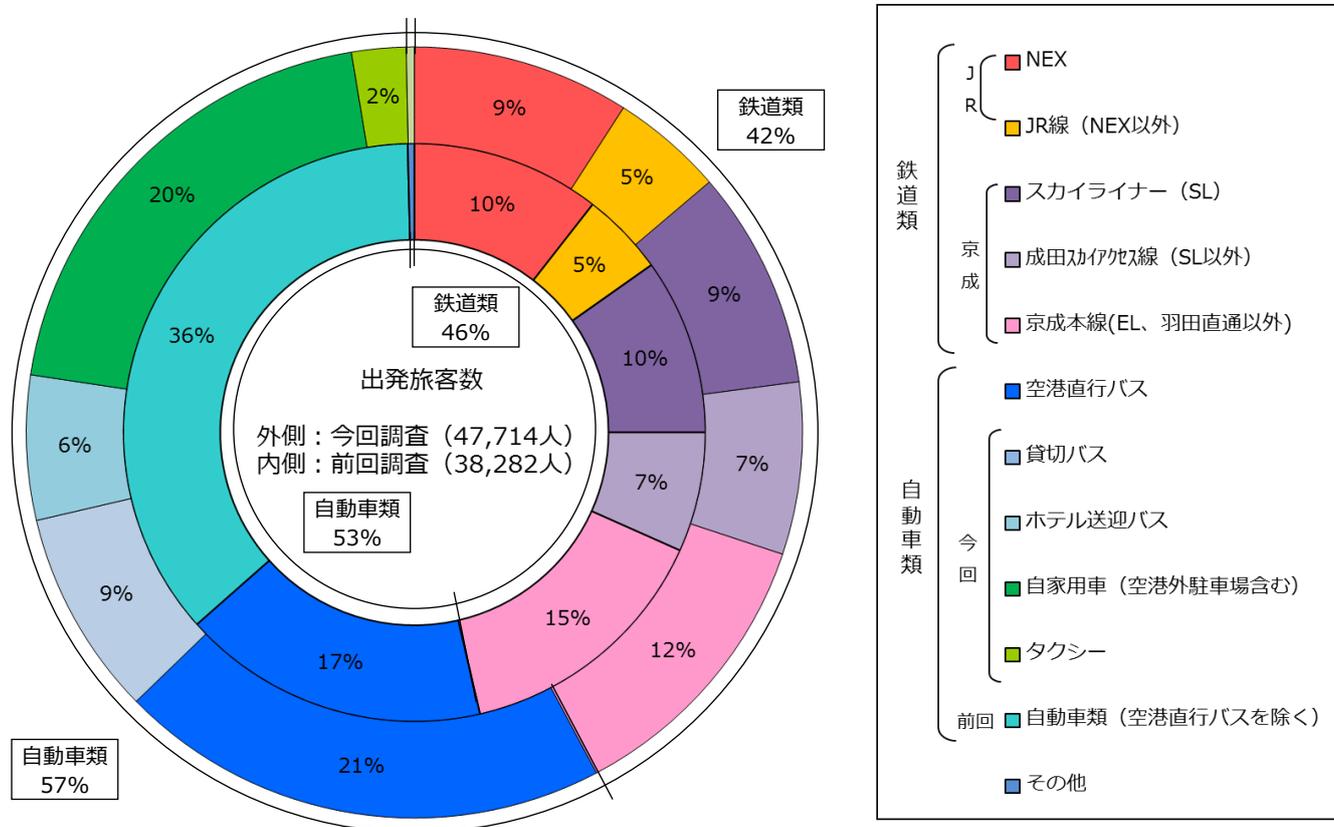


図-4 出発旅客のアクセス交通手段構成比

②日本人出発旅客（37,794人：出発旅客の79%）について

【全体】

- 日本人出発旅客のアクセス交通の構成比は、自動車類が57%(前回51%)、鉄道類が43%(前回48%)となっており、前回調査との比較では、鉄道類の割合が5%減少し、自動車類が6%増加しています。

【鉄道類】

- 鉄道類では京成本線が13%（前回16%）と最も多くなっています。前回調査との比較では、NEXが10%から8%となり2%減少、京成本線が16%から13%となり3%減少しています。

【自動車類】

- 自動車類では自家用車（空港外駐車場含む）が最も多く24%、次いで空港直行バスが17%（前回15%）などとなっています。

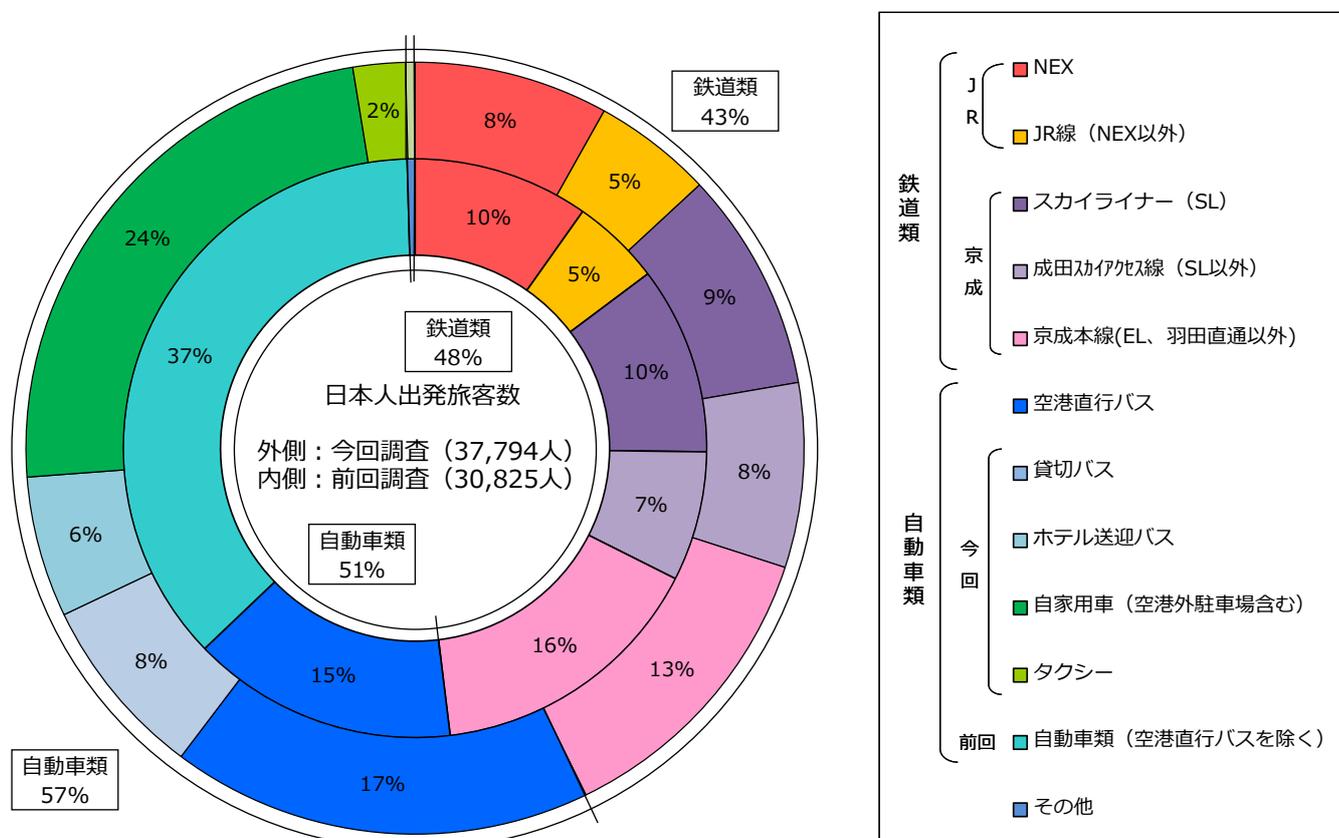


図-5 日本人出発旅客のアクセス交通手段構成比

③外国人出発旅客（9,920人：出発旅客の21%）について

【全体】

- 外国人出発旅客のアクセス交通の構成比は、自動車類が60%(前回61%)、鉄道類が40%(前回39%)となっており、前回調査と大きな変動はありません。

【鉄道類】

- 外国人出発旅客の傾向は、NEXが13%(日本人8%)と比率が高くなっています。

【自動車類】

- 外国人出発旅客の傾向は、空港直行バスが最も多く32%(日本人17%)、貸切バスが12%(日本人8%)となっており、これらで全体の44%(日本人25%)を占めています。前回調査との比較では、空港直行バスが27%から32%となり5%増加しています。

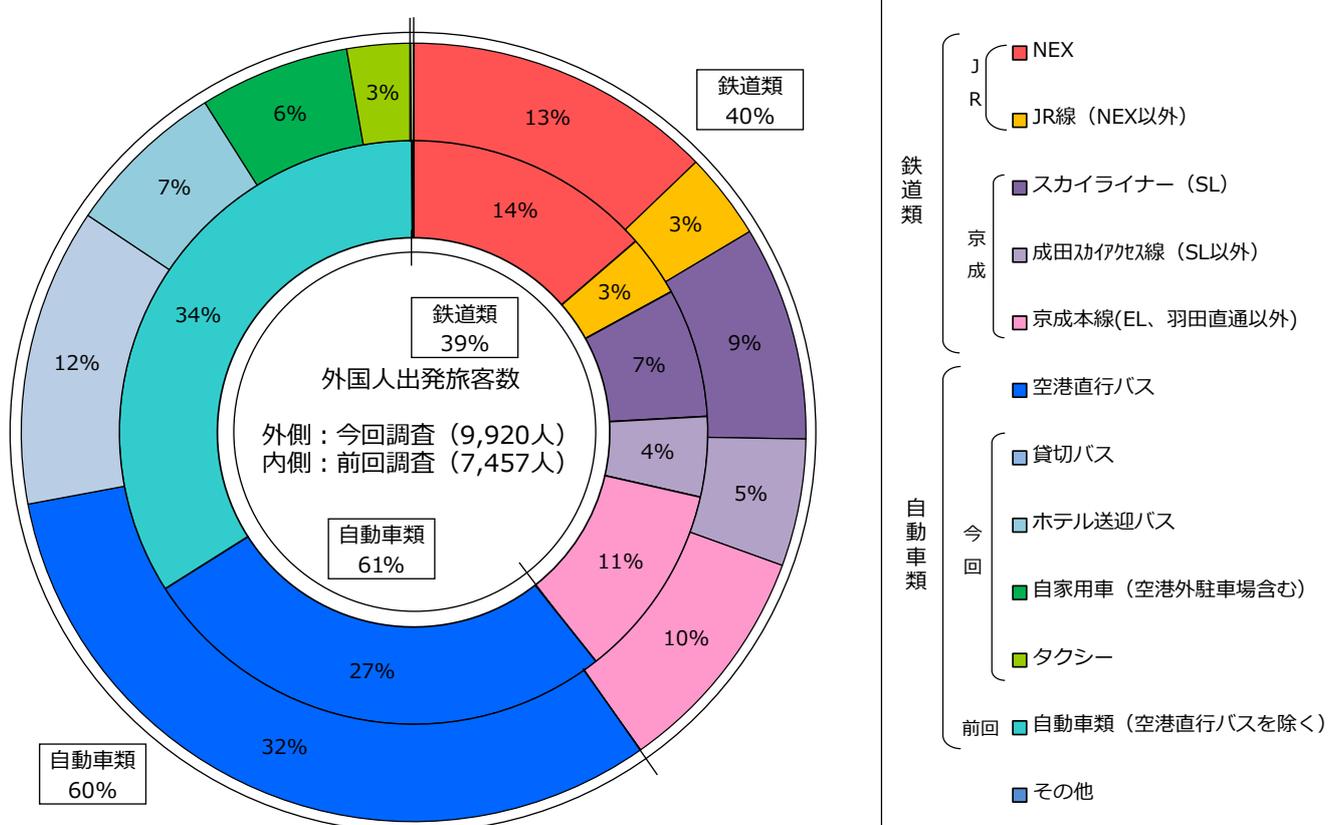


図-6 外国人出発旅客のアクセス交通手段構成比

④空港内従業員（29,292人:全入港者の31%）について

【全体】

- 空港内従業員のアクセス交通の構成比は、自動車類が52%（前回53%）、鉄道類が36%（前回34%）となっており、前回調査と比較して大きな変動はありません。

【鉄道類】

- 鉄道類では、京成本線が最も多く20%（前回19%）、JR線が8%（前回7%）などとなっています。

【自動車類】

- 自動車類では、自家用車（空港外駐車場含む）が最も多く38%となっています。

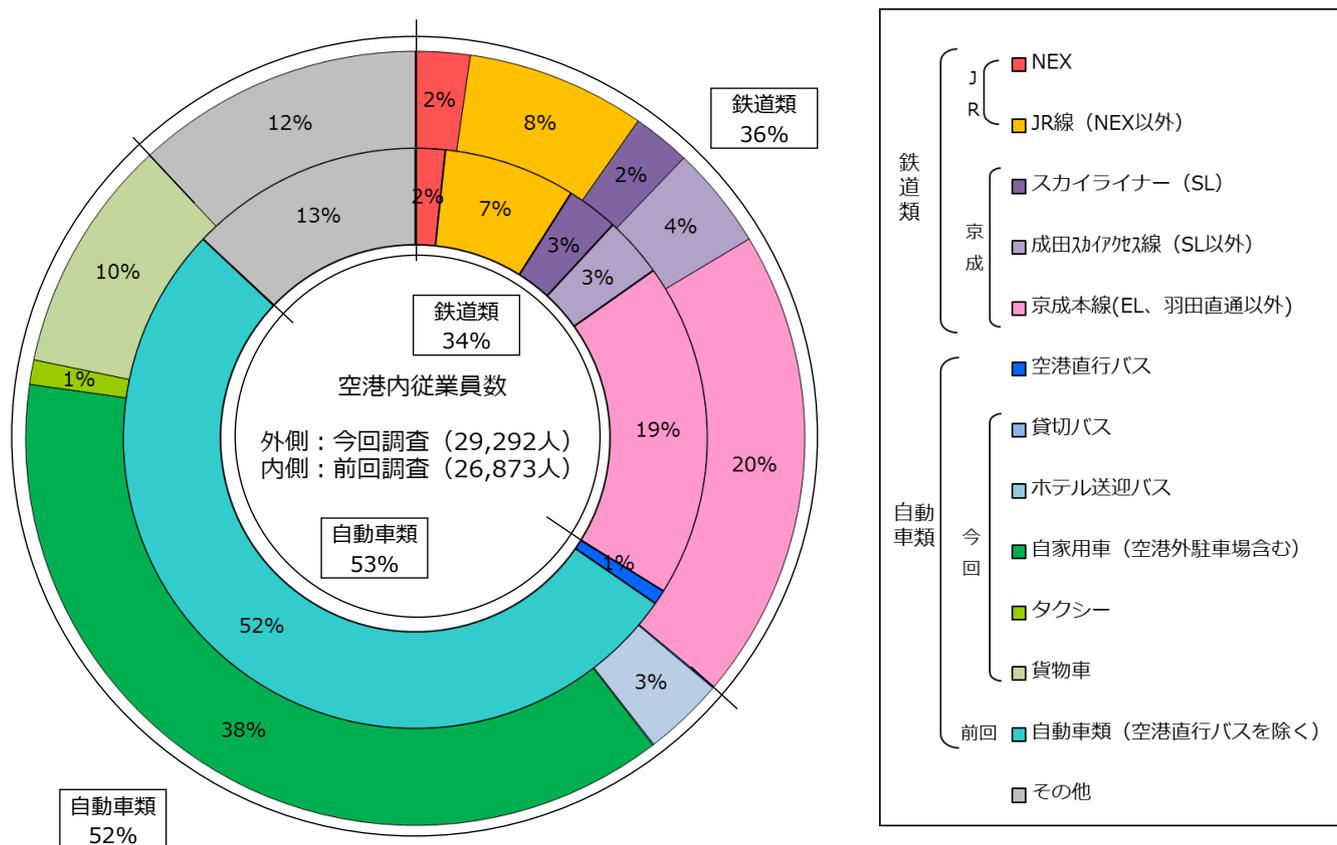
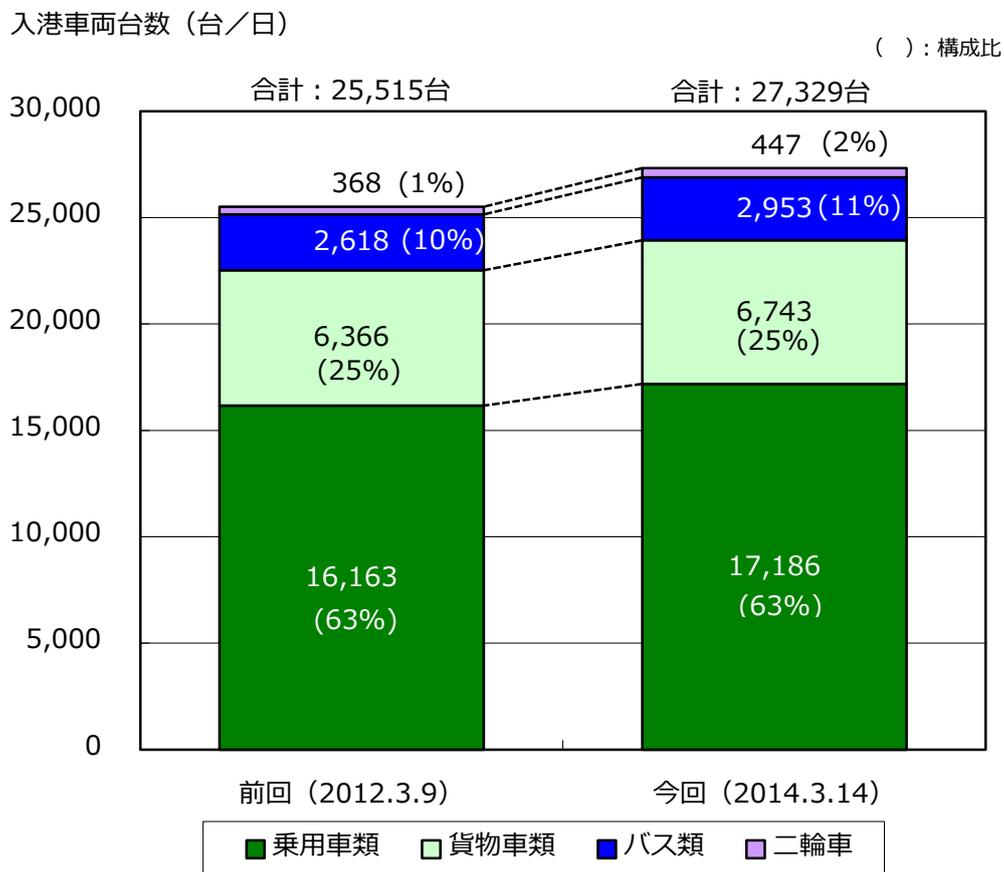


図-7 空港内従業員のアクセス交通手段構成比

※ 第1ゲート、第2ゲート、第6ゲートにおいては、午前7時～9時までの間、ゲート混雑防止の為、バスの来港目的については出発旅客と見なしてカウントを行っております。

【参考：入港車両カウント調査結果】

- ・ 成田空港への入港車両台数は、全体で 27,329 台となっており、このうち乗用車類が最も多く 63%、貨物車類が 25%、バス類が 11%となっています。
- ・ 前回と比較すると、全体の入港車両台数は 7%増加しておりますが、車種別の比率は概ね同じとなっています。



※ 乗用車類：乗用車・タクシー、貨物車類：小型貨物車・普通貨物車
 バス類：空港直行バス・地域路線バス・大型バス・マイクロバス

図-8 入港車両台数

- ・ 車種別の入港車両台数は、自家用車が全体の55%（14,993台）を占めており最も多く、次いで貨物車が25%（6,743台）となっています。

入港車両台数（台/日）

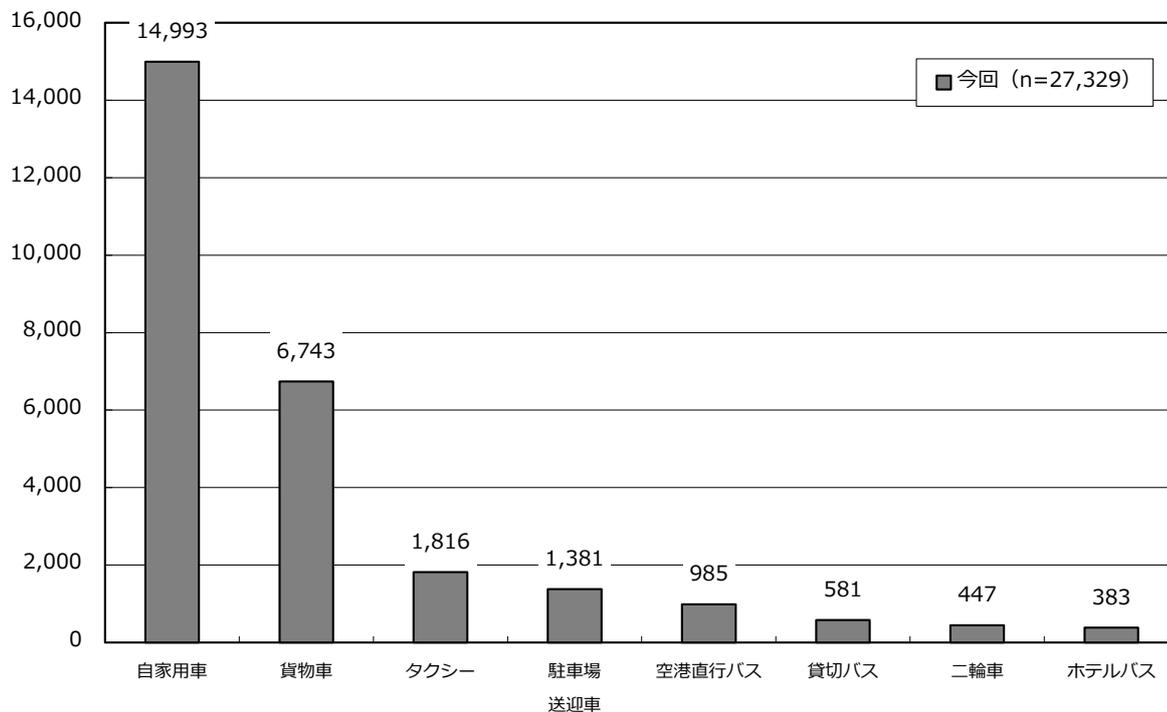


図-9 車種別入港車両台数

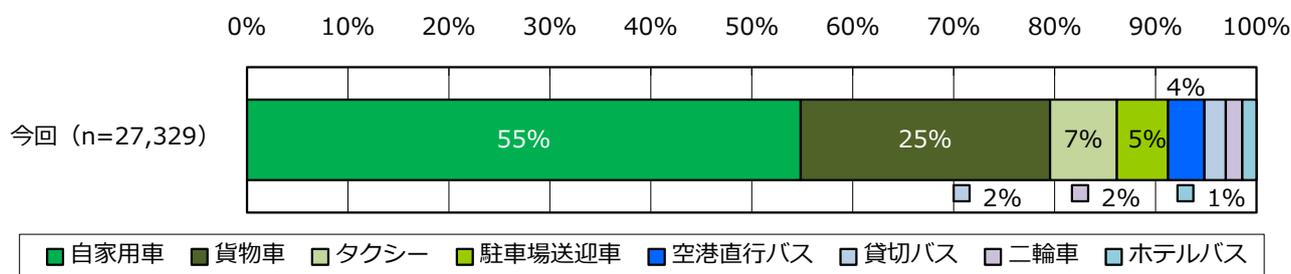


図-10 車種別入港車両台数構成比

注) 車種区分は以下の通り

- ・ 貨物車：小型貨物車、大型貨物車
- ・ 空港直行バス：東京空港交通等の中・長距離の高速路線バス、地域路線バス（千葉交通、成田空港交通の近距離路線バス）
- ・ ホテルバス：近隣ホテルからの送迎車（大型バス、マイクロバス）
- ・ 駐車場送迎車：近隣駐車場利用の乗用車、近隣駐車場からの送迎車（マイクロバス）